

平成 28・29 年度 東京都道徳教育推進拠点校
平成 28・29 年度 武蔵野市教育研究奨励校

研究主題

相手を思いやり、自ら進んで実践する子供の育成 ～道徳教育を通して～



武蔵野市立第二小学校

あいさつ

武蔵野市教育委員会
教育長 宮崎 活志

近年、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが重要な課題となっています。また、規範意識、自己肯定感、社会参画意識の低下やいじめ問題等の課題解決が求められています。

これらの課題に対応していくため、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」が本格的に実施され、道徳教育の一層の充実が期待されています。

このような中、本校は平成28年・29年度東京都道徳教育推進拠点校及び武蔵野市教育研究奨励校として「相手を思いやり、自ら進んで実践する子供の育成～道徳教育を通して～」をテーマに、2年間研究を進めてきました。

2年間の研究の中で、教員が道徳科における教材理解を深め、発問や話し合い活動など指導方法を工夫したことで、物事を多面的・多角的に考え、日常生活の中で相手を思いやる等、自らすすんで道徳的实践につなげている児童が増えたと伺っています。

今後、本校の研究成果が武蔵野市の各学校において活用され、「特別の教科 道徳」の指導の充実が一層図られることで、本市の児童に豊かな心がさらに育まれることを期待しております。

結びになりますが、本校の研究に対して温かく御指導いただきました帝京大学教育学部初等教育学科准教授 飯島英世先生をはじめ、多くの先生方に心から感謝申し上げます。そして、実践研究を積み重ねてこられました第二小学校 阿部智明校長をはじめとする教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

はじめに

武蔵野市立第二小学校
校長 阿部 智明

社会の国際化が進み多様な文化や価値観がもたらされるようになった現在、人々が互いのよさや違いを認め合い、互いに尊重し合いながら生きていくことが大切です。そのためには、社会の主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい資質・能力を備えることが必要です。

しかし、それを担うべき道徳教育は、教科の学習と比べると軽視される風潮がありました。また、道徳の時間には、読み物資料の登場人物の心情理解に偏った指導が行われているという指摘もされてきました。道徳教育が、児童の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割を果たしていることを鑑みると、今、道徳教育を改めて見直すとともに、道徳の時間の指導法を工夫・改善・充実させていくことが重要であると考えます。

そこで、本校は、平成28・29年度東京都道徳教育推進拠点校、平成28・29年度武蔵野市教育研究奨励校の指定を受け、研究主題を「相手を思いやり、自ら進んで実践する児童の育成～道徳教育を通して～」と設定し、「特別の教科 道徳」を中心として実践的な研究を推進することにより、児童の道徳性を養う効果的な指導法を追究することとしました。

「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」を求め、試行錯誤しながらも一步一步進んできた本校の研究につきまして本日の研究発表を通して皆様からご意見、ご指導をいただきたいと思っております。そして、今後も「二小の子」の心に響く道徳教育の在り方をより一層深く探っていきたいと考えております。

結びに、本研究を進めるに際しましてご指導いただきました、帝京大学教育学部初等教育学科准教授 飯島 英世 様、千代田区立番町小学校長 鈴木 邦夫 様、東京都教職員研修センター 研修部教育開発課指導主事 土生津 静 様、武蔵野大学教育学部児童教育学科教授 上岡 学 様に厚く御礼申し上げますとともに、研究を見守りご支援をいただきました、武蔵野市教育委員会ならびに関係の皆様にも心より感謝し御礼申し上げます。

研究構想図

日本国憲法 教育基本法
学校教育法 新学習指導要領
東京都と武蔵野市の教育目標

〈学校教育目標〉
◎ や さ し く
○ か し こ く
○ た く ま し く

【特別の教科 道徳の目標】
第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【児童の実態】
○困っている友達がいたら心配したり、親身になって助けようとしたりすることができる。
●深く考えずに相手を傷つけてしまうことがある。

【第二小学校の道徳教育の重点目標】
「豊かな心を持ち、進んで実践できる児童の育成」
・自ら考え、正しく善悪の判断ができる子
・勇気をもって実践する子
・思いやりを持ち、互いに助け合い支え合う子
・生命を尊び、健康の増進に努める子

平成28・29年度 研究主題

相手を思いやり、自ら進んで実践する子供の育成 ～道徳教育を通して～

《目指す児童像》

〈低学年〉身の周りの人を思いやり、優しい気持ちで行動する子
〈中学年〉相手のことを理解して、自ら考えて行動する子
〈高学年〉相手のことを受け入れ、他者とよりよく生きるために行動する子

《教育活動全体を通じて行う道徳教育》

たて割り班活動 宿泊体験学習
二小オリンピック あいさつ運動
家庭や地域とのつながり

《道徳の授業における研究仮説》

〈低学年〉

自分の考えを持ち、伝え合う活動を繰り返すことで、他者に関心をもつ子供を育成することができるだろう。

〈中学年〉

話し合い活動を通して多様な考えがあることを知ることで、相手のことを理解し、行動できる子供を育成することができるだろう。

〈高学年〉

話し合い活動を通して他者との違いを認め、理解することで、他者とよりよく生きるために行動する子供を育成することができるだろう。

《道徳の授業で重視したこと》

- 児童が多面的・多角的な見方や考え方ができるようにする。
- 児童が授業で学んだ道徳的価値を自分のこととして考えられるようにする。
- 児童が自分のこれからの生き方につなげられるようにする。

《道徳の授業づくりにおける工夫》

教材の理解

発問の工夫

話し合い活動

役割演技・動作化

目指す児童像に迫るための 道徳の授業づくり

第6学年の研究授業を例にした授業のつくり方です。詳しい指導案は、実践事例集をご覧ください。

児童の実態の把握

児童の実態から本時で扱う道徳的価値について、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**のどれに重点をおくか考え、ねらいを設定する。

児童の実態
相手のことを思いやって、親切にすることが大切であると頭では理解していても、相手の立場に立って考える意識が足りない。

ねらいとする道徳的価値の理解

ねらいとする道徳的価値について（B親切、思いやり）自分の思いだけを主張するのではなく、相手を思いやったり、相手の思いを受け入れたりすることで、望ましい人間関係を築いていく。

ねらいの明確化

本時のねらい
思いやりの心を持ち、どのように接することが相手のためになるのかをよく考えて、親切にしようとする心情を養う。

教材の理解

ねらいに迫るためには、児童の実態を踏まえた教材を用いることが大切である。そのためには、教材の特質を見極める必要がある。そこから、考えられる授業の方向性を導き出し、児童の実態と照らし合わせて、授業の方向性を吟味した。

教材の理解

第6学年
内容項目 B 親切、思いやり
教材名「最後のおくり物」

教材の特質

- ・ ジョルジュじいさんのロペーヌに対する思いやりのある行動が教材の中にいくつも散りばめられている。
- ・ ロペーヌのジョルジュじいさんに対する思いやりも描かれている。
- ・ ジョルジュじいさんのロペーヌに対する思いやりが崇高なものである。

考えられる授業の方向性

- ・ ジョルジュじいさんのロペーヌに対する思いやりについて考えることを通して、どのように接することが相手のためになるのかを考えさせていく。
- ・ ロペーヌのジョルジュじいさんに対する思いやりについて考えることを通して、どのように接することが相手のためになるのかを考えさせていく。

本時の授業の方向性

心情を追う対象を思いやりのある行動を受けた側であるロペーヌにすることで相手の立場に立った思いやりについて考えさせていく。そうすることで、誰に対しても思いやりの心をもつことが大切であることを自覚させ、困っている人がいたら、その人の立場に立って親切にしようとする心情を育てていく。

児童の実態と照らし合わせると…

- ・ ジョルジュじいさんの崇高な価値に対して児童が自我関与するのは困難ではないか。
- ・ ジョルジュじいさんの思いやりのある行動の一つに、金銭的な支援があるが、お金をあげるという行為そのものが思いやりであると、児童が混同してしまうのではないか。

教育活動全体を通じた道徳教育の取組を補充・深化・統合しながら授業づくりをする。
補充…日常の道徳教育で取り扱う機会が十分でない道徳的価値を補う。ついでに考えを深める。
統合…日常の道徳的体験と道徳的価値の関わりする。

ねらいとする道徳的価値に迫るために、効果的な場面で取り入れる。

役割演技・動作化

話し合い活動

評価

発問の工夫

本時の学習

目指す児童像

発問の工夫

発問によって児童に考える必然性や切実感をもたせ、自由な思考を促し、物事を多面的・多角的に考えさせることが大切である。本研究ではまず**中心発問**を設定した。つぎに中心発問につながる発問を設定した。そして、自己の生き方についての考えを深める発問を設定した。これらの発問が、授業を通して一体的に捉えられるようにすることが大切である。

まずは、中心発問の設定から！

発問づくりの順番 ①→②→③

①中心発問

中心発問は、ねらいとする道徳的価値が大切だと改めて感じたり、自分の生き方を見つめたりすることができる場面に設定する。

②中心発問につながる発問

つぎに、中心発問につながる発問を考える。それらの発問を通して、児童に道徳的価値に迫るための心情を考えさせる。

③自己の生き方についての考えを深める発問

展開後段では、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことをさらに深く心にとめたり、これからの生き方について考えたりすることができる発問を設定する。

本時の発問

おくりものが届いたとき、ロペーヌはどう思ったでしょうか。

突然おくりものが届かなくなったとき、ロペーヌはどう思ったでしょうか。

なぜ、ジョルジュじいさんは手紙の差出人の名前を書かなかったのでしょうか。

最後の手紙を読んだとき、ロペーヌはどんな気持ちだったでしょうか。

今日の学習を通して「思いやり」についてどう考えましたか。これからの生き方について考えましょう。

発問によって児童に考えさせたいこと

登場人物の心情を理解させる。

道徳的価値と自分を照らし合わせて自分事として考えさせる。

道徳的価値について多面的・多角的に考えさせる

これからの生き方につなげて考えさせる。

話し合い活動

「特別の教科 道徳」では、他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むために、一人一人の児童が道徳的な課題を自分自身の問題としてとらえ、向き合うことが大切である。

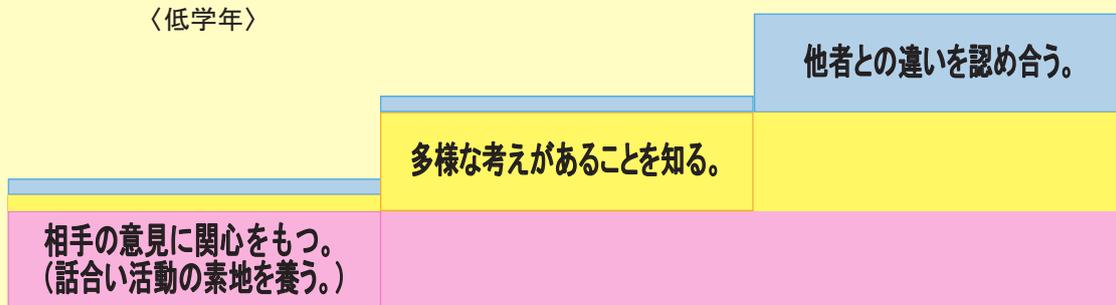
物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるためにも、話し合い活動は「特別の教科 道徳」の授業において必要不可欠な学習活動であるといえる。

〈高学年〉

〈道徳授業の話し合い活動における目指す児童像〉

〈中学年〉

〈低学年〉



低学年

自分で考えたことをペアで伝え合い、その後、友達が考えたことに一言感想を伝えるという活動を取り入れる。話し手は聞き手を意識して伝え、聞き手は話し手を意識して聞くということにつながると考えた。

第1学年

内容項目 B 親切、思いやり
教材名 「はしのうえのおおかみ」

登場人物のおおかみやくまのように自分にできる優しさについて考え、伝え合いを行った。優しさについての友達の考えを聞くことで、自分の思う優しさの幅を広げられるようにした。

互いに椅子の向きを変え、話し手は顔を見て相手に聞こえるように話し、聞き手は一言感想を伝えるためにも一生懸命に耳を傾ける姿が見られた。

ぼくは、これから友達がこまっている時に、「大丈夫。」と声をかけたいです。

いいですね。私もしてみたくくなりました。

中学年

グループでの話し合いから学級全体への話し合いに広げていく活動を取り入れる。一人一人が自分の意見をもつとともに相手の意見にも耳を傾けることにより、多様な考えがあることを知ることができると考えた。

第3学年

内容項目 B 親切、思いやり

教材名「わたしのしたこと」

主人公のした親切が実はおせっかいだったことに気付いた場面に中心発問を設定した。その際に、それまでの主人公の心情を板書で振り返り、学級全体で心情の変化を確認することで、児童が主体的に考えられるようにした。

また、「(自分の考えと)①同じ②違う③似ている」の3つの視点をもたせて話し合いをさせたことで、児童は多様な考えがあることに気付くことができた。

私は、「本当は自分でやりたかったのかもしれないな。」と考えました。

私の考えと少し似ています。
私は、「私が塗っちゃったから言えなかったのかな。」と考えました。

高学年

グループでの話し合いから学級全体への話し合いに広げていく活動を取り入れる。多様な考えをもち、他者の考えを認めることにより、互いの考えを深め合うことができると考えた。

第5学年

内容項目 B 相互理解、寛容

教材名「ブランコ乗りとピエロ」

児童が主体的に議論できるように、考える視点を「どうしてピエロはサムを許したのか」に置いた。また、3つの観点を提示して学級全体で話し合ったことで、互いの考えを認め、自分の考えを深めることができた。

- ①自分と同じ考えに共感し、さらに言葉を付け加えること。
- ②自分とは違う考えを認め、自分が考えていることを伝えること。
- ③友達の考えに対して疑問に感じたことを尋ねること。

〇〇さんの言った、他のサーカスの団員の気持ちを考えるとサムを許せない気持ちも分かります。それでも、やっぱり自分は頑張ったサムを見たら許したくなると思います。

役割演技・動作化

道徳的価値の理解を深めるためには、登場人物の心情理解が必要不可欠である。「役割演技・動作化」によって実際の場面の追体験や道徳的行動などをしてみることで、登場人物の心情を考え、道徳的価値の理解を深めた。

第2学年
内容項目 C 公正、公平、社会正義
教材名「さるくんはだめ」

仲間はずれにしてしまった友達への声掛け場面について役割演技を行った。児童は、言われた相手が嬉しくなるだけでなく、言った自分まで優しい気持ちになることを実感し、誰とでも仲良くすることの大切さを感じていた。

仲間に入れてくれてありがとう。
ぼくもいつも怒ってばかりでごめんね。

仲間はずれにされて
悲しかったけど、
謝ってくれてうれしいな。

謝れてよかった。
さるくんはすぐ怒るだろうと
決めつけて仲間はずれにして
しまったモヤモヤが少しなくな
ったな。

さっきはごめんね。
やっぱりいっしょにケーキを作ろう。

第4学年
内容項目 B 親切、思いやり
教材名「もう一枚のカード」

PKを外してしまった相手選手への声掛け場面について役割演技を行った。児童は、両選手の気持ちを実感するとともに、第三者としてその行動を評価した審判の気持ちを理解することができた。そこから、相手の気持ちを考えた上で敬意をはらって相手を思いやることの大切さを感じていた。

ありがとう。
ぼくたちの分まで決勝戦は
がんばってね。

自分たちのこれまでの
努力を認めてもらえて
少し救われる。

目の前でつらい思いを
している相手の気持ち
に寄り添いたい。

負けた相手にも思いやりのある
行動をして素晴らしい！

すごいプレッシャーの中で
よく蹴ったね。
君はかっこよかったよ。

二小における道徳科の評価

道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況を適切に把握し評価することが求められる。それは、他の児童との比較によるものではなく、児童の成長を積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うものである。また、一つの授業のみではなく、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握していく。そして、数値による評価ではなく、記述式で評価していく。

評価例(低学年)

親切について考える学習では、①登場人物の気持ちを考え、相手に対する思いを深く考えることができるようになってきました。親切にしてもらったことへの感謝の気持ちについて、②相手の思いや存在に気付き言葉で表したり、これまでの自分の行動を振り返ったりすることができました。

①

②

評価の観点

以下の観点をもとに、蓄積したワークシートや授業中の姿などから評価を行った。

- ①ねらいとする道徳的価値についての理解を深めようとしていたか。
- ②物事を多面的・多角的に考えようとしていたか。
- ③自己を見つめ、自己の生き方につなげて、考えを深めようとしていたか。

評価の仕方

○ワークシートから見取る

学習した道徳的価値についての考えや、その授業における自分の考えを書かせる。その中でどのように学びを深めたかを評価する。

○教師の記録から見取る

授業中の発言や話合いの中での表情など、児童の姿で気付いたことを記録していく。その記録をもとに評価する。

○自己評価から見取る

授業で取り組んだ内容に対して、学習感想を含めた自己評価を学期単位で実施する。児童が道徳の授業内で何を学び成長できたかを振り返り、その過程を自分自身で把握する。児童が分析した自己評価をもとに、一人一人の学習状況や成長の様子を教師が評価するとともに今後の学習に生かす。

教育活動全体を通じて行う道徳教育

《特色ある教育活動の取組例》

なかよしグループ

異年齢集団との交流を通して、人を思いやる心の育成を図る。

体育朝会・二小オリンピック

体育朝会や二小オリンピックを通して、体力向上への意欲と態度の育成を図る。

伝統芸能（むさしのばやし・箏）

伝統芸能を通して、武蔵野の郷土を愛する心情の育成を図る。

宿泊体験学習（セカンドスクール等）

各学年の発達段階に応じ、豊かな人間性の向上を図る。

情報活用・情報モラル教育

警察署や消防署、関係諸機関などの協力を得ながら、情報活用、情報モラルの育成を図る。

家庭・地域とのつながり



どんど焼き、親子運動会、避難所訓練等を通して、地域とつながり、郷土を愛する心情の育成を図る。

《特別活動での取組例》

計画委員会が中心となった取組例

あいさつ運動

学期に数回、一定の期間に計画委員会を中心として、登校時間にあいさつ運動を行い、礼儀を重んじる態度の育成を図る。

ペットボトルキャップ回収

ペットボトルキャップの回収や、ユニセフ募金等のボランティア活動を通して、地域社会に貢献する心情の育成を図る。

1年生を迎える会

1年生を迎える会では、1年生に温かい言葉や歌のプレゼントをすることにより、異年齢集団における思いやりの心情の育成を図る。

その他（委員会活動・クラブ活動）

委員会活動では、年間指導計画や、道徳教育の全体計画に基づき、主体的に活動する力を養い、学校生活の充実と向上を図る取組を行っている。クラブ活動では、異年齢集団で互いに教え合い、励まし合いながら自主性を重んじる活動に取り組んでいる。

研究の成果

- 児童の実態と道徳的価値を照らし合わせて、ねらいや発問、学習活動を吟味することで、児童にとって必要感や切実感のある授業ができるようになった。
- 授業における児童の発言や態度が変化した。
友達の考えに耳を傾け、自分の考えと比較して認める姿が見られた。また、友達の考えで気になったことを話し合うことで自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができた。

今後の課題

- 教育活動全体における道徳的実践をさらに充実させる。
教育活動全体における道徳的価値の価値付けを行う。それにより、児童が道徳的価値を意識して教育活動全体に取り組むことができるようにする。
- 評価についての研究をさらに進める。
学習状況や成長の様子を見取る観点や方法をより明らかにする。また、評価の実践を重ねることで、教師の評価力を向上させる必要がある。
- 学校・家庭・地域が一体となって道徳教育をより一層推進していく必要がある。
教育活動全体で学んだ道徳的価値を家庭や地域とも連携して深める。それにより、児童が社会生活でも道徳的価値を意識して生活できるようにする。

おわりに

副校長 江口 邦子

平成 28・29 年度の「東京都道徳教育推進拠点校」ならびに「武蔵野市教育研究奨励校」の指定を受け、道徳教育について研究を進めてまいりました。

初年度は、若手の教職員が多い中、道徳の授業の進め方や指導案作成等、道徳の基本について、全員で学ぶことから始めました。

そして今年度は、「考え、議論する道徳」の実現に向けて道徳科における質の高い多様な指導方法を探ってまいりました。道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議において例示された「読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした学習」「様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決する学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の3点について教職員も「考え、議論」しながら授業実践を重ねてきたところです。

2年間、研究を進めることで「分かったこと」や「まだまだ分からないこと」「これから改善すること」等の成果と課題が明確になり、教職員の大きな自信と成長につながりました。また来年度から始まる評価についても、この2年間の研究を生かして、さらによりよい評価を目指していきます。

最後になりましたが、道徳教育について、年間を通して懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました、帝京大学教育学部初等教育学科准教授 飯島 英世 先生には、深く感謝申し上げます。また、研究を見守りご支援いただきました、武蔵野市教育委員会ならびに関係の皆様にも心より感謝申し上げます。

<ご指導いただいた先生方>

帝京大学教育学部初等教育学科准教授	飯島 英世 先生
千代田区立番町小学校校長	鈴木 邦夫 先生
東京都教職員センター研修部教育開発課指導主事	土生津 静 先生
武蔵野大学教育学部児童教育学科教授	上岡 学 先生

<研究に携わった教職員>

校長 阿部 智明	副校長 江口 邦子	◎算数少人数	廣沢 朋久 (主)
○1年1組 武田ちさと (主)	3年1組 長谷川海洋 (幹)	○6年1組	石原 恵 (主)
産休代替 早川 健秀	3年2組 中山千恵香	6年2組	埴田 聡
1年2組 長坂 美穂	○4年1組 井出 史進 (幹)	図工専科	鳥越恵都子
2年1組 和嶋 恵美	4年2組 鶴田 彩	音楽専科	杉山 倫子 (主)
○2年2組 中村梨璃子	5年1組 馬鳥 誠	養護教諭	雨宮麻衣子
2年3組 三上 勇	○5年2組 小笠原未来		
◎…研究主任	○…研究推進委員	(幹)…主幹教諭	(主)…主任教諭

都事務 石山 嘉之	嘱託事務 斎藤三枝子	嘱託用務 鳥海 義人
非常勤教員 城田美穂子	嘱託事務 長山 一巳	嘱託用務 山路 和美
	嘱託事務 郡司美恵子	

(平成28年度) 副校長 岡田 仁美 ○竹野 紀子 ○熊谷有美子 坂倉 雅子